

**屋外モデルイベント開催支援事業
検証報告書**

**令和3年3月
仙 台 市**

目 次

1 はじめに	4
2 新しい生活様式に対応したイベント開催に向けた国・県の取り組み	5
(1) 国の対応	5
(2) 宮城県の対応	5
3 本市の取り組み	6
(1) 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」 の策定	6
(2) ガイドラインに沿った本市の対応	7
(3) イベント開催に係る各種支援施策	8
4 屋外モデルイベント開催支援事業について	9
(1) 補助金の創設について	9
(2) 屋外モデルイベント開催支援補助金の概要について	9
(3) 補助金の公表から補助対象イベント決定に至る経過	10
(4) 補助対象イベントの概要	10
5 検証結果	12
(1) 本市のガイドラインの遵守状況に関する検証	12
①会 場	13
(ア) 会場レイアウトの設定	13
(イ) 入退場口	14
■設置方法	14
■待機列対策	15
(ウ) 公園通行者のための導線確保	18
(エ) ステージエリア	20
(オ) 物販、飲食、休憩スペース	24
■密集対策	24
■行列対応	27
②会場内への入場規制	29
(ア) 会場内の最大収容人数の設定	29
(イ) 会場内収容人数のコントロール	30
③イベント参加者情報の把握	32
(ア) イベント関係者	32
(イ) 来場者	33
④感染症対策	35
(ア) 入退場口	35

(イ) ステージエリア	36
(ウ) 物販、飲食、休憩スペース	38
■物販・飲食提供ブースにおける感染症対策の実施状況	38
■飲食・休憩スペースにおける感染症対策の実施状況	40
(エ) 運営スタッフ等イベント関係者への周知	41
(オ) 来場者への広報	42
(2) 収支計画に関する検証	43
①補助対象イベントの収支予算	43
②収入面に関する検証	44
③支出面に関する検証	45
④収支面に関するまとめ	45
参考：入場料の徴取	46
6 有識者意見	47
7 イベント開催時に留意すべきポイント	49
(1) イベントの企画時に留意すべき事項	49
(2) イベント開催当日に留意すべき事項	50
(3) イベント開催後に留意すべき事項	51
付属資料	52

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症の発生後、本市においても連日のように感染者の確認が続いており、市民の生活に多大なる影響を及ぼしている。まちの賑わいという観点においても、令和2年度に開催が予定されていた市内のイベントの多くが中止又は延期の判断を余儀なくされ、交流人口が大きく減少するとともに、イベント関連事業者の経営環境にも深刻な影響を及ぼしているが、現時点においては状況が好転する見通しは立っていない。

このような情勢を踏まえ、本市では令和2年8月に「屋外モデルイベント開催支援事業」を開始し、適切な新型コロナウイルスの感染防止対策を講じたイベントの開催にかかる経費の一部を補助することによって、事業者の事業継続支援と、コロナ禍における屋外イベント開催ノウハウの蓄積を目指すこととした。

本事業により創設した「屋外モデルイベント開催支援補助金」に対しては13件の申請があり、その中から感染症対策や企画内容において評価が高かった4件のイベントが採択され、いずれも令和2年10月から11月にかけて開催された。イベント開催にあたっては補助対象事業者が感染症対策を徹底したこともあり、会場における感染者発生への報告はなく、無事に終了することができた。一方で、実際にイベントを開催することにより、感染症対策を講じるためには相応の経費が必要となることなど、様々な課題も浮き彫りとなった。

本報告書は、「屋外モデルイベント開催支援補助金」の補助対象となった4件のイベントにおいて講じられた感染症対策とその結果について、補助対象事業者から提出された報告書をもとに効果や課題等を検証し、コロナ禍における屋外イベント開催のため留意すべき事項等を示すことにより、今後のイベント開催の参考としていただくことを目的としている。なお、本報告書の作成にあたっては、東北医科薬科大学大学院薬学研究科 臨床感染症学教室の藤村茂教授に監修いただき、感染対策の観点からご意見をいただいた。

最後に、本事業に関心を持ってご応募いただいた多くの事業者や団体等の皆様、事業の採択にあたりご協力をいただいた仙台商工会議所、仙台観光国際協会の皆様、そして、コロナ禍にあっても、様々な工夫によりイベントを無事に開催いただいた「イベントの未来を考える会」、「東日本放送株式会社」、「一般社団法人 IKIZEN」、「仙台食堂 2020 実行委員会」の皆さまに心より感謝申し上げますとともに、今後、本報告書が有効に活用されることで、再び、まちに賑わいが戻ることを切に願うものである。

2 新しい生活様式に対応したイベント開催に向けた国・県の取り組み

(1) 国の対応

①「新しい生活様式」の実践例の公表

厚生労働省では、新型コロナウイルス感染症専門家会議の提言を踏まえ、日常生活の中において感染拡大防止の観点から取り入れるべき実践例について公表しており、「イベント等への参加」に関する実践例としては、接触確認アプリを活用することや、体調不良時には参加を見合わせることを示されている。

②新型コロナウイルス接触確認アプリ「COCOA」の運用開始

厚生労働省では、令和2年6月20日にスマートフォン向けの新型コロナウイルス感染症接触確認アプリ「COCOA」をリリースした。本アプリ利用者間の近接での接触（概ね1m以内に15分以上）をスマートフォンの近接通信機能（ブルートゥース）によって検知・記録し、陽性が確認されたアプリ利用者が陽性事実の登録を行うことで、陽性者の濃厚接触者にあたる可能性がある利用者に対しその旨を通知する。これにより利用者が感染可能性を早期に把握し、検査の受診など保健所のサポートを速やかに受けることが可能となった。

③催物の開催制限等について

令和2年5月25日の緊急事態宣言解除に伴い、政府は「新しい生活様式」の定着等を前提として一定の移行期間を設け、段階的に社会経済活動のレベルを引き上げていくこととした。内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室では、イベントの開催要件や留意事項等について、各自治体及び省庁等へ、感染症の状況を踏まえた通知を随時発出している。

・資料1「【事務連絡】3月1日以降の催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項について

(令和3年2月26日)」

(2) 宮城県の対応

①みやぎお知らせコロナアプリ（MICA）運用開始

宮城県では、店舗等において感染者が認められた場合に、利用者に対して迅速に感染情報を伝達するアプリの運用を令和2年5月22日に開始した。

対象施設としては、全国的にクラスターが発生した業種の店舗等（ライブハウス、カラオケ店、飲食店、民設展示場）のほか、県有施設、県指定管理者施設、市町村公共施設が対象となっており、仙台市有施設としては、「せんだい3.11メモリアル交流館」や「震災遺構仙台市立荒浜小学校」、その他障害者福祉センター等の屋内施設が登録されている。

②「新型コロナ対策実施中」ポスター（イベント向け）の発行開始

宮城県では、感染拡大の抑制とイベントへの参加促進を目的に、一定の基準を満たした感染防止対策に取り組んでいるイベントであることを示す「新型コロナ対策実施中ポスター（イベント向け）」の発行を令和2年8月31日から開始した。主催者がイベントごとに

オンラインでイベントの基本情報や実施する感染防止対策について登録することで、「新型コロナ対策実施中」ポスターの電子データでの取得が可能となり、ポスターについては会場に掲出できるほか、イベントのホームページやチラシ等での二次利用が認められている。

3 本市の取り組み

(1) 「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン」の策定

市主催事業等の取扱や市有施設の使用についてガイドラインを策定し、政府の段階的制限の緩和や宮城県の対応方針を踏まえ、随時改訂を行ってきた。今後も国・県の動向に注視するとともに、市内の感染状況等を適切に見極め、状況に応じて運用していく。

- ・資料2「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン
(令和3年3月1日付 十四訂版)」

【市施設の使用・催物開催制限の状況】(仙台市ガイドラインより抜粋)

時期		収容率※ア	人数上限※ア	全国・広域的な人の移動を伴う大型イベント
5月27日から 6月18日まで	屋内	50%以内	原則 100人	原則中止または延期
	屋外	十分な間隔	原則 200人	
6月19日から 7月9日まで	屋内	50%以内	原則 1,000人	
	屋外	十分な間隔	原則 1,000人	
7月10日から 9月18日まで	屋内	50%未満	原則 5,000人	
	屋外	十分な間隔	原則 5,000人	

時期	イベントの種類		収容率※ア	人数上限※ア
9月19日から 令和3年4月末まで	A	大声での歓声、声援等が想定されないもの	100%以内 (収容定員がない場合は、密が発生しない程度の間隔)	①収容人数 10,000人超 ⇒ 収容人数の50% ②収容人数 10,000人以下 ⇒ 5,000人
	B	大声での歓声、声援等が想定されるもの	50%以内※イ (収容定員がない場合は、十分な間隔 [1m])	

※ア 収容率と人数上限でどちらか小さい方を限度(両方の条件を満たす必要)

※イ 異なるグループ間では座席を1席設け、同一グループ(5人以内に限り)内では座席間隔を設けなくてもよい。すなわち、収容率は50%を超える場合がある。

【地域の行事、全国的・広域的なお祭り、野外フェス等】(仙台市ガイドラインより抜粋)

イベントの性質	収容率等について
展示会・地域の行事等 (入場や区域内の適切な行動確保が可能、名簿等で参加者の把握が可能)	上記A、Bに準拠
全国的・広域的なお祭り・野外フェス等 (入場や区域内の適切な行動確保が困難、名簿等で参加者を把握困難)	十分な人と人との間隔(1m)を設ける。 間隔の維持が困難な場合には、開催について慎重に判断する。

(2) ガイドラインに沿った本市の対応

①市主催事業の中止・延期

令和2年2月下旬以降、市ガイドラインに従い、主催事業について適宜中止・延期の判断を行った。また、すでに本市が名義後援している事業についても主催者に中止・延期の検討を要請したところ、開催された事例は見られなかった。

同じく、本市の関係スポーツ団体に対しても、大会等の中止・延期等、開催自粛の要請を文書により行うとともに、児童生徒を対象とする事業については、学校の休校や部活動の取り扱いを参考に対応方針を決定した。また、すでに広報済みの講座やイベントについては、所管するホームページにおいて、中止の広報を行った。

【参考：中止を決定した仙台市の主催事業の例】

イベント名	令和2年度開催予定日
第30回仙台国際ハーフマラソン大会	5月10日(日)
各区区民まつり	8月～10月
魅力いっぱい！ 交通フェスタ2020	9月26日(土)
高齢者生きがい健康祭	9月～11月
仙台クラシックフェスティバル2020	10月2日(金)～4日(日)
福祉まつり「ウェルフェア2020」	10月4日(日)

②本市の大型屋外イベント開催状況

令和2年3月24日、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の延期が発表され、全国においても各地を代表するイベントの中止や延期の判断が次々になされた。

本市においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、仙台・青葉まつりや仙台七夕まつり、定禅寺ストリートジャズフェスティバルなど、例年多くの人出で賑わう大型イベントが中止又は延期を余儀なくされた。また、大型イベントに限らず、これまで毎週のように勾当台公園をはじめとした屋外施設で開催されていた小規模から中規模のイベントについても感染拡大の影響を受け、その多くが中止を強いられた。

各種イベントの中止によりイベント来場者がもたらす経済波及効果は喪失され、イベント運営業者やイベント資機材リース業者、音響・照明関連業者など、イベントに携わる事業者の経営状況も著しく悪化したものと推察される。

【本市で開催される代表的な大型イベントのうち中止されたもの】

イベント名	令和2年度開催予定日	入込数
第30回仙台国際ハーフマラソン大会	5月10日(日)	8.96万人 (令和元年度)
第36回仙台・青葉まつり	5月16日(土)から 5月17日(日)まで	97.15万人 (令和元年度)
第51回仙台七夕花火祭	8月5日(水)	47万人 (令和元年度)
仙台七夕まつり	8月6日(木)から 8月8日(土)まで	224.9万人 (令和元年度)
第30回定禅寺ストリート ジャズフェスティバル	9月12日(土)から 9月13日(日)まで	77万人 (令和元年度)
第23回みちのくYOSAKOIまつり	10月10日(土)から 10月11日(日)まで	45万人 (平成30年度)

第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会や2020SENDAI 光のページェント等については、感染症対策を講じた上で開催することができたものの、来場者の制限や規模の縮小などを余儀なくされた。

【本市で開催される代表的な大型イベントのうち実施（規模縮小を含む）されたもの】

開催日	イベント名	開催にあたっての対策
10月25日（日）	第38回全日本大学女子駅伝対校選手権大会	・沿道での声援を禁止 ・式典の規模縮小
12月18日（金）から 1月11日（月）まで ※1月は土日祝のみ開催	2020SENDAI 光のページェント	・定禅寺通緑道の通行は協力金申込者に限定 ・密を生じた場合には緊急消灯を実施 ・「サンタパレード」など恒例行事は中止

（3）イベント開催に係る各種支援施策

こうした状況を受け、本市ではイベントの継続開催の支援等を目的として、各般の施策を実施した。屋内イベントについては、仙台市施設使用料の減免や、民間屋内施設での公演に対する会場使用料の一部減免等の支援制度を立ち上げた。また、屋外イベントに関しては、大型観光イベントに係る事業継続を支援するとともに、屋外モデルイベント開催支援事業を開始した。

①屋内イベント支援施策

（ア）仙台市施設使用料の減免

【概要】屋内イベントの再開を支援するため、イベントに使用される市のホール系施設、展示系施設、大型スポーツ施設の使用料を50%減免

【予算額】41,168千円（仙台国際センターの利用料金収入減少分）

【期間】令和2年6月19日（金）～令和3年3月31日（水）

（イ）文化芸術公演の開催支援

【概要】音楽、演劇等の公演再開を支援するため、市内の民間屋内施設で公演を行う主催者に対し、会場使用料の一部（会場費実費の2分の1）を助成

【予算額】250,000千円

【期間】令和2年9月1日（火）～令和3年3月31日（水）

②屋外イベント支援施策

（ア）屋外イベント開催支援

【概要】感染症対策を適切に講じた屋外イベントを開催する事業者に対し、補助対象経費の4分の3（最大6,000千円）を上限として経費の一部を補助

【予算額】24,000千円

【期間】令和2年9月17日（木）～11月30日（月）

（イ）大型観光イベント事業継続補助

【概要】大型観光イベントの主催団体に対し、「新しい生活様式」に対応した開催のための準備作業等に要する費用を補助

【予算額】23,168千円

4 屋外モデルイベント開催支援事業について

(1) 補助金の創設について

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、本市において開催されるイベントの多くが中止せざるを得ない状況となった。これに伴い、イベント運営業者やイベント資機材リース業者、音響・照明関連業者など、イベントに携わる事業者の経営は著しく悪化し、国の雇用調整助成金の特例措置や、仙台市地域産業支援金等の各種支援策等を活用しても十分な損失補填には至らず、事業継続に対する新たな支援が必要な状況となっていた。

このような状況を踏まえ、本市は新しい生活様式に即した屋外イベントの開催ノウハウを蓄積することにより、イベントの再開に繋げるとともに、イベント関連事業者の事業継続支援を目的として、国の「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」の活用により「屋外モデルイベント開催支援補助金」を創設することとした。

(2) 屋外モデルイベント開催支援補助金の概要について

①目的

- ・新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じた上で、市が所管する屋外施設において開催されるモデルケースとなるイベントについて、必要経費の一部を補助することにより、イベントの主催団体や関連事業者等を支援すること。
- ・モデルイベントの運営を通じて得られた課題等を検証することにより、「新しい生活様式」に対応した屋外イベントの開催ノウハウの蓄積を図り、屋外イベントの再開に向けた動きを促進すること。

②補助対象者

新型コロナウイルス感染症対策を適切に講じた上で、市が所管する屋外施設において、音楽演奏等のステージイベントや飲食・物販ブースの出店など、まちの賑わい創出に資するイベントを開催する市内の団体または事業者

③対象期間

令和2年9月17日（木）から11月30日（月）までに開催されるイベント

④対象となるイベント会場

本市が所管する屋外施設

⑤イベントの主な要件

- ・市民が親しみやすい企画内容であり、市民が広く参加できるイベントであること。
- ・新型コロナウイルス感染症対策、公衆衛生及び危険防止等の安全対策が十分に講じられており、「新しい生活様式」に即したモデルイベントの検証対象として適切な事業規模及び企画内容であること。
- ・国のイベント開催制限の段階的緩和の目安（内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長が発出する事務連絡等に基づく）を遵守して開催されること。

⑥補助金額

補助対象経費の3/4を補助する（上限6,000千円）。

【補助対象経費と補助対象外経費の例示】

補助対象経費	補助対象外経費
<ul style="list-style-type: none">・感染症対策関連経費・イベント運営関連経費・運営スタッフ人件費・警備費・会場設営関連経費・看板制作費・事務局費などの諸経費	<ul style="list-style-type: none">・イベント出演者の出演料・運営スタッフ等の飲食代・その他イベントの運営に際して必要性が低いと判断される経費や公的な資金の用途として不適切な経費

（3）補助金の公表から補助対象イベント決定に至る経過

補助金の創設については、令和2年8月17日（月）に仙台市政記者クラブにおける記者発表及び本市ホームページにおいて公表した。補助金については多くの事業者から関心が寄せられ、8月24日（月）に開催した説明会には42団体が出席した。また、本事業の趣旨を正確に認識していただき、交付申請に関する手続きを円滑に進めていただくことを目的に実施した個別の事前相談には16日間で22団体が参加し、そのうち、提出期限の9月9日（水）までに13団体からの申請を受け付けた。

補助対象イベントの選定にあたっては、庁内の関係部署及び外部団体により構成される審査委員会を設置し、申請者から提出されたイベントの企画書、収支予算書、新型コロナウイルス感染予防対策マニュアル等をもとに書面審査を実施した。

審査においては、賑わい創出と感染予防対策の両立が図られているか、他のイベント主催者の参考となるような汎用性が高い実施方法や会場レイアウトが設定されているかなどといった視点を軸として選考し、結果として上位4件を採択した。なお、安全性の確保や、企画内容の充実等の観点から3件のイベントについては条件を付しての採択となった。

（4）補助対象イベントの概要

①NEW NORMAL for SENDAI～杜の都復活祭～

- ・主 催：イベントの未来を考える会
- ・日 時：令和2年10月3日（土）10：00～18：00
- ・会 場：勾当台公園市民広場
- ・内 容：「コロナ禍におけるイベント開催」をテーマとした学識経験者による講演・パネルディスカッション、飲食ブースの出店、青葉まつり等のPRブース出展、ステージイベント（アマチュア演奏、仙台すずめ踊り等）
- ・採択の条件：より多くの市民の参加を促すための飲食関連の出店数の拡充。子供向けの大型エア遊具の設置にあたっての新型コロナウイルス感染症対策の検討。
- ・対応状況：飲食関連の出店を拡充し、エア遊具の設置は見送った。
- ・来場者数：3,704人

②2020KHB フリーマーケット in あすと長町 杜の広場

- ・主 催：(株) 東日本放送
- ・日 時：令和2年10月31日(土) 9:00～15:00
令和2年11月1日(日) 9:00～15:00
- ・会 場：あすと長町 杜の広場公園
- ・内 容：フリーマーケット、食品・雑貨・飲食店等の出店、
ステージイベント(トークショー、アマチュア演奏等)
- ・採択の条件：フリーマーケットエリアにおける来場者の密集防止対策。
- ・対応状況：フリーマーケット出店者数を減少させることにより通路幅を広く確保した。加えて、会場内の巡回スタッフを増加させ、来場者の密集時には適切に誘導することとした。
- ・来場者数：11,197人(1日目：5,082人、2日目：6,115人)

③みちのくまると収穫祭 in 仙台

- ・主 催：一般社団法人 IKIZEN
- ・日 時：令和2年11月2日(月) 10:00～16:00
令和2年11月3日(火・祝) 10:00～16:00
- ・会 場：勾当台公園市民広場、仙台市役所本庁舎駐車場
- ・内 容：東北の食材等を販売する生産者、飲食店等の出店、ドライブスルーマルシェ、
ステージイベント(ジャズフェス、仙台すずめ踊り等)
- ・来場者数：5,331人(1日目：1,114人、2日目：4,217人)

④仙台食堂 2020

- ・主 催：仙台食堂 2020 実行委員会
- ・日 時：令和2年11月14日(土) 10:00～14:00、15:00～19:00
令和2年11月15日(日) 10:00～14:00、15:00～19:00
- ・会 場：勾当台公園市民広場、カフェ前広場
- ・内 容：東北の一次生産者と市内飲食店のコラボブース、ケータリングカー、
ステージイベント(アーティストライブ、在仙大学応援団の演舞等)
- ・採択の条件：当日にイベントの開催を知った市民が参加できるよう一部チケットの当日販売の実施。
- ・対応状況：チケットの当日販売を実施した。
- ・来場者数：2,793人(1日目：1,223人、2日目：1,570人)

5 検証結果

(1) 本市のガイドラインの遵守状況に関する検証

- 全ての補助対象イベントは、「新型コロナウイルス感染症の発生に伴う仙台市の事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン（補助対象イベントの開催期間は十二訂版。令和3年3月1日現在では十四訂版に更新されている。以下「本市のガイドライン」とする）に基づき、運営マニュアルや感染症対策が策定された。
- 本項では、補助対象イベントにおける本市のガイドラインの遵守状況について検証する。

■イベント開催の前提条件

・関係機関への事前協議の実施

- 内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室の通知に基づき、参加者が1,000人を超えることが見込まれるイベントに関しては、都道府県への事前相談が必要である。

◎検証の視点（本市のガイドラインの規定に基づく）

①	会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
②	人と人との間隔をできるだけ確保する
③	大声を伴うイベントでは、隣席との身体的距離の確保（同一のグループは座席を空けず、異なるグループ又は個人間は1席（立席の場合は1m）空ける
④	参加者の名簿の作成や、連絡先等の把握に努める
⑤	イベント等の前後や休憩時間などの交流等を極力控えるよう呼びかける
⑥	風邪のような症状がある者は参加を控える（事前に伝える）
⑦	2週間以内に海外（感染流行国）又は国内の感染流行地域（クラスター等）へ旅行・出張した者には、参加を控えていただくよう事前に周知することを検討する
⑧	高齢者や基礎疾患がある者は人混みをできる限り避ける
⑨	マスクの着用及び咳エチケットの励行を呼びかける
⑩	手洗いの徹底
⑪	会場の入り口等にアルコール消毒液を設置
⑫	こまめに換気を行う（1～2時間ごとに5～10分）
⑬	入場者の制限や誘導
⑭	イベント参加者に、厚生労働省から提供されている接触確認アプリ（COCOA）などの活用を促すこと
⑮	その他（公園横断者のための導線確保など）

①会場

(ア) 会場レイアウトの設定

◎検証の視点

- ①会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ②人と人との間隔をできるだけ確保する
- ④参加者の名簿の作成や、連絡先等の把握に努める

- イベントの開催にあたっては、参加者の情報の把握に努めることとされているため、全てのイベントにおいて、公園内にイレクターフェンスを設置して会場とする区画とそれ以外の区画を区分し入退場口を設けることにより、イベント参加者の情報を把握するとともに会場内の滞在者数をコントロールした。
- 出店ブースや休憩スペース等のレイアウトを適切に設定した。
- 全てのイベントにおいて、通路等、来場者が滞在する区画の面積を確保するため、飲食店等の出店者数を平常時より少なく設定した。特に「2020KHB フリーマーケット」に関しては、フリーマーケット出店者数を当初の227組から171組まで減らした。

■「NEW NORMAL for SENDAI」の事例

▲公園の通過者に配慮して会場内に導線を確保

▲ステージエリア

※ステージエリアと飲食エリアを区分することにより来場者の密集発生を抑制

▲飲食エリア

【検証結果】

- ・イレクターフェンスを設置することにより、来場者情報の把握と会場内滞在者数のコントロールを実施することができた。
- ・2020KHB フリーマーケット主催者が実施したアンケートによると、1~2割程度の出店者や来場者が会場内に密を感じていた。

【今後の対応】

- ・イベントの開催にあたっては、来場者情報の把握に努めることとされており、イレクターフェンスの活用による会場エリアの区分けは有効と考えられる。
- ・十分な通路幅等の確保が必要である。
- ・会場エリアを仕切ることにより、イベントの内容が会場の外からはわかりづらくなってしまうため、外周にイベントの概要を掲載した看板等を設置し、会場の近辺を通りかかった方が実施内容を把握できるようにすることが望ましい。

(イ) 入退場口

◎検証の視点

- ①会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ②人と人との間隔をできるだけ確保する
- ①会場の入り口等にアルコール消毒液を設置
- ③入場者の制限や誘導

■設置方法

- 全てのイベントにおいて、来場者の体調確認や連絡先の把握、手指消毒を確実に実施するとともに、会場内滞在者数を把握するため、会場には入場口を設け、他からの入場は不可とした。



▲入場口（仙台食堂）



▲再入場口（2020KHB フリーマーケット）

【検証結果】

- ・入場口の設置数を増やすことで来場者が円滑に入場でき、待機列の発生を抑止できる。
- ・入場者と退場者の導線の錯綜を避けるため、入場口と異なる場所に退場口を設置した。また、来場者の一時退場や再入場が想定されるイベントについては、再入場口も設置したが、来場者にとって入退場、再入場口の区別がわかりにくく、退場口付近で、入場希望者と退場者、再入場者が混在する場面もあった。

【今後の対応】

- ・入退場口を設ける場合には、入場者と退場者の導線が錯綜することがないように設置位置

を工夫するとともに、案内表示の視認性について十分に気を配る必要がある。

■待機列対策

- 入場の際には来場者の検温や連絡先の登録、手指消毒など、実施すべき対策が多く、来場者による会場内への待機列が生じてしまう恐れがあることから、警備員や誘導員を配置することに加え、以下の対策がとられた。

■入場待機列対策

イベント名	入場待機列対策
NEW NORMAL for SENDAI	前後の間隔を1m確保し、カラーコーン・バーにより間隔を保持
2020KHB フリーマーケット	前後の間隔を1m確保し、待機位置に目安を表示
みちのくまるごと収穫祭	スタッフの声がけにより来場者の間隔を確保（待機位置の目安等の表示なし）
仙台食堂 2020	前後の間隔を1m確保し、待機位置に目安を表示。入場口を2か所設定

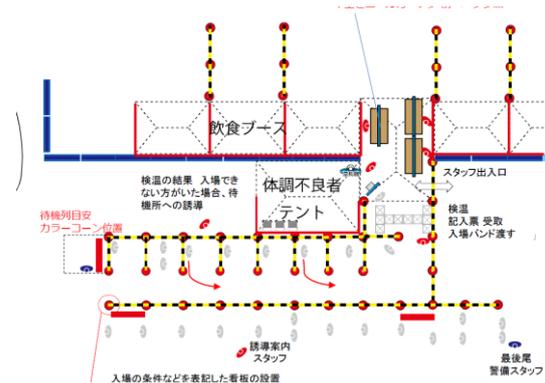
【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・最大で20人程度の待機列が発生したが、警備員の誘導により、適度な間隔をあけて並んでいた。



▲カラーコーン・バーで入場待機レーンを設置



▲カラーコーン・バーと警備スタッフの配置図

◆2020KHB フリーマーケット

- ・最大100人程度の待機列を見込んでいたが、当日には最大300人が並んだため、後方においては来場者のソーシャルディスタンスの確保が困難となった。
- ・当日実施したアンケートでも、入場時に密を感じた来場者の割合は29%であり、入場時における密集防止対策について、課題を残す結果となった。



▲待機位置を示すフットプリント



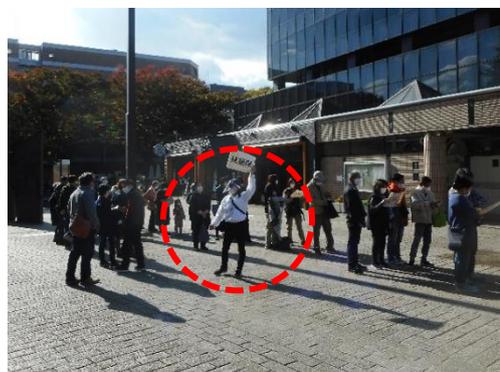
▲入場待機列後方で発生した密集

◆みちのくまると収穫祭

- ・入場口における検温や連絡先等の手続に時間を要したことにより、長蛇の列が発生したが、あらかじめ、市民広場に隣接する「カフェ前広場」を待機列の滞留スペースとして設定し、スタッフが誘導したことで、来場者は一定の間隔を保つことができ、公園外の歩道に来場者がはみ出ることもなかった。なお、ソーシャルディスタンスを示すフットプリントは用意しなかった。



▲入場を待つ来場者の列



▲ソーシャルディスタンスの確保を呼び掛けるスタッフ

◆仙台食堂 2020

- ・入場時間を長めの4時間に設定した有料チケット制を導入したことで、チケット所有者の来場時間が分散した。
- ・入場口を2か所設定したことにより、待機列はほとんど発生しなかった。



▲入場口付近に表示した待機位置の目安



▲待機列はほとんど発生しなかった

【今後の対応】

- ・手続きの効率化やスタッフの増員など、入場口での受入体制の強化は、来場者の円滑な入場に有効である。
- ・待機列が発生することを想定し、待機位置を示す目安の表示や、待機列が伸びた場合のスペースを事前に十分に確保しておく必要がある。
- ・入場口における滞留の発生を抑制するためには、入場待機スペースにおいて案内看板を設置したり、誘導スタッフによる声かけを実施したりすることにより、あらかじめ入場のために必要となる手続きを来場者に認識いただくことが有効である。



▲入場口の手前に設置された案内看板
(NEW NORMAL for SENDAI)



▲入場を待つ来場者に入場にあたり必要となる手続き
について説明するスタッフ (仙台食堂 2020)

(ウ) 公園通行者のための導線確保

◎検証の視点

⑮その他（公園横断者のための導線確保など）

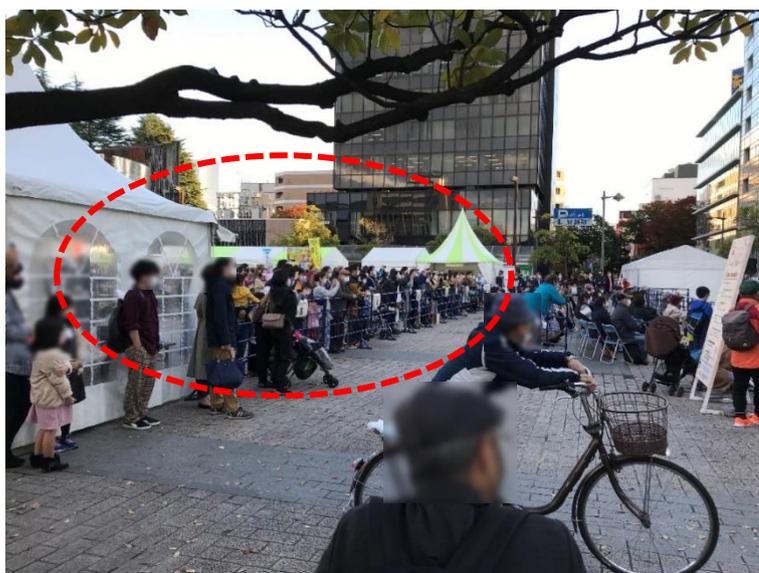
- 全てのイベントは公園を会場としたが、公園では、イベントに参加しない来園者等が通行を希望することから、これらの方々の通行を妨げることがないように、本市から主催者に配慮を求め、会場内に公園通行者向けの導線を確保した。

■公園横断者向け導線確保の状況

イベント名	会場	導線の設置箇所
NEW NORMAL for SENDAI	勾当台公園 市民広場	ステージエリアと飲食エリアの間
2020KHB フリーマーケット	杜の広場公園	杜の広場公園と隣接するアリーナとの間、 KHB 新社屋との間
みちのくまるごと収穫祭	勾当台公園 市民広場	公園の常設ステージと 会場として使用する区画の間
仙台食堂 2020	勾当台公園 市民広場	公園の常設ステージと 会場として使用する区画の間

【検証結果】

- ・会場内に導線を確保することに伴い、入退場口を追加で設置する必要が生じ、必要となるイレクターフェンスの数も増加した。また、導線の確保によりイベント会場の面積が減少し、飲食スペースやステージ観覧エリアの客席の設置数について制約が生じてしまった。
- ・ステージ前に導線を確保した「みちのくまるごと収穫祭」と「仙台食堂 2020」においては、ステージ脇の区画で立ち見客を誘発することとなり、人の滞留の発生を招いてしまった。

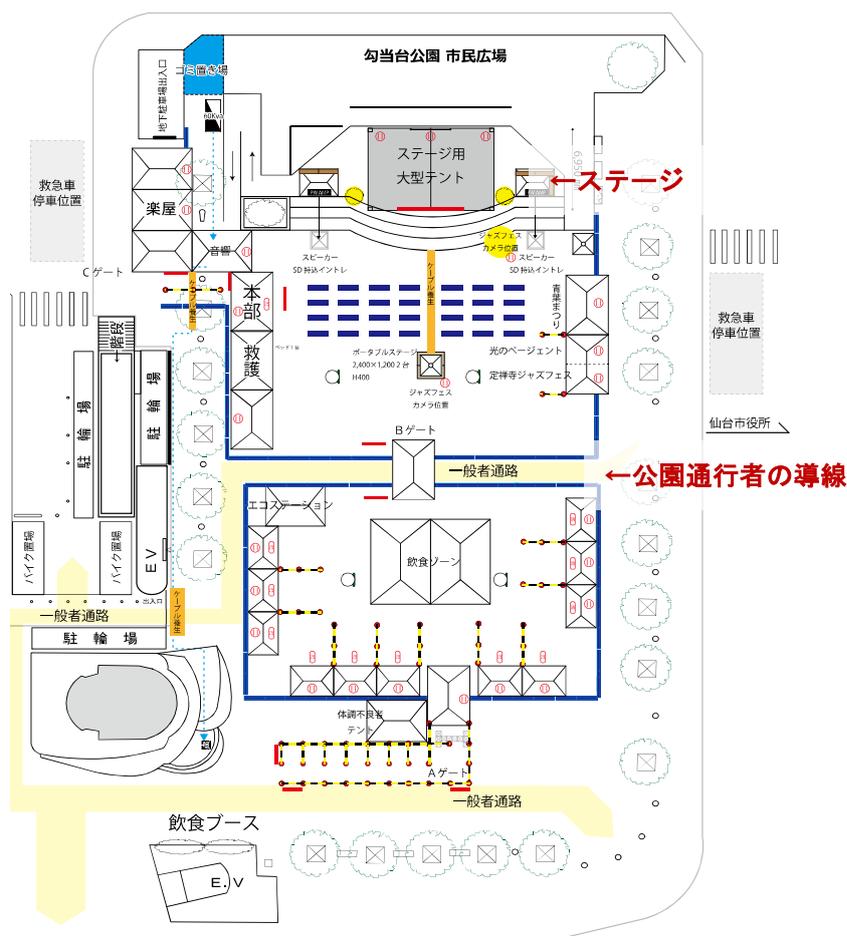


▲みちのくまるごと収穫祭においては、ステージ前に公園通行者向けの導線を確保したが、結果的に会場エリア外のステージ脇と会場内観覧エリアにおける立ち見客を多数誘発することになった。

- ・公園通行者の導線を勾当台公園市民広場のステージ前のスペースに設定した場合、ステージ観覧エリアが狭くなり、結果として立ち見客等の密集を誘発することとなった。一方、導線を勾当台公園市民広場の東西の中心付近設定した場合、ステージ観覧エリアの面積を十分に確保できたが、飲食・休憩スペースが狭くなるデメリットも生じた。

【今後の対応】

- ・ソーシャルディスタンスの観点から、会場のレイアウトを工夫することで、会場面積を有効に活用する必要がある。
- ・市所管の屋外施設を会場とする際には、イベントに参加しない来園者の導線確保について配慮することが望ましい。しかし、その導線の確保場所については、会場内の各エリアのスペースを十分に確保できるよう検討しながら、施設管理者と協議することが望ましい。
- ・NEW NORMAL for SENDAI においては、導線を勾当台公園市民広場の東西の中心付近に設定したが、公園通行者の導線確保とステージ観覧エリアの面積確保の両立を図る場合、現時点においてはこのレイアウトが比較的有効だと考えられる。



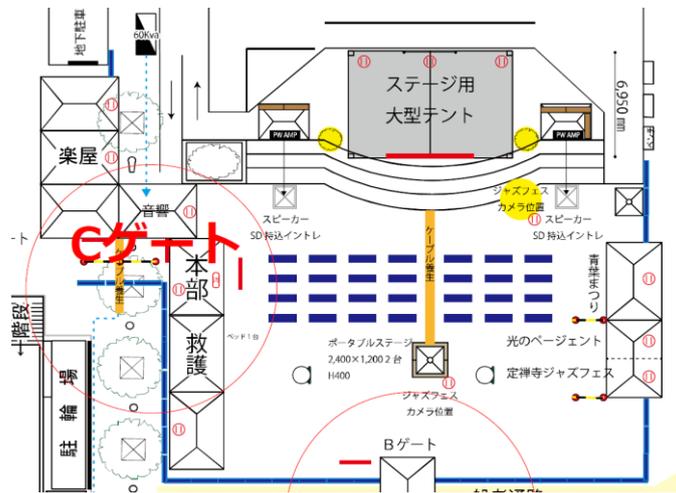
▲NEW NORMAL for SENDAI の会場レイアウト図。イベントに参加しない公園通行者の導線をステージと離れた場所に確保した。

(工) ステージエリア

◎検証の視点

- ①会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ②人と人との間隔をできるだけ確保する
- ③入場者の制限や誘導

◆NEW NORMAL for SENDAI におけるステージと観覧席のレイアウト



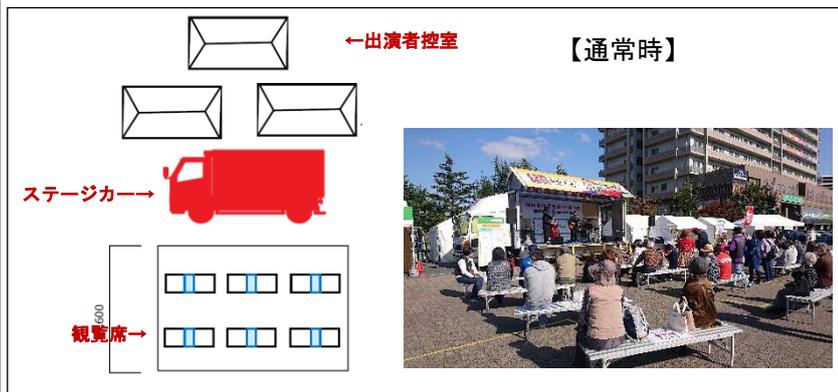
- ・ステージと観覧席をエレクターフェンスで囲み、入場口で収容人数をカウント
- ・ステージと観覧席は区分せず、その間の距離は約7mを確保
- ・観覧席のベンチの間隔は約1m確保
- ・3人掛けのベンチを2人掛けで使用することとして、中央に注意喚起のPOPを掲示

【検証結果】

- ・ステージエリアで密集は発生せず、概ね問題なく運用できたが、人気のステージでは、ベンチが3名で使用されるなど、やや密が生じた。



◆2020KHB フリーマーケットにおけるステージと観覧席のレイアウト



- ・ステージと観覧席は会場内の一角に設置し、ステージをフェンスで囲ってはいない
- ・ステージと観覧席最前列の距離は約7m
- ・ベンチとベンチの間隔は約1.2m
- ・3人掛けのベンチを2人掛けで使用することとして、中央に注意喚起のPOPを掲示

・【芸能人のトークショーの開催時】

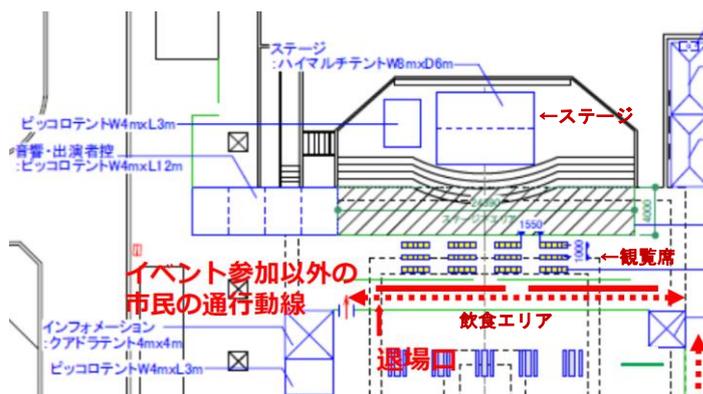


- ・観覧エリアをイレクターフェンスで区分し、入場者数を50名に限定
- ・足元に1.2m間隔で立ち位置の目安を表示確保

【検証結果】

- ・ステージエリアで密集は発生しなかった。
- ・ステージプログラムには、多くの観覧希望者が見込まれる芸能人によるトークショーが組み込まれていた。その時間帯に限りステージ前の観覧スペースをイレクターフェンスで区分けし、事前に配布した整理券を所持する人だけを観覧可能とすることにより、密集の発生を防止した。

◆みちのくまると収穫祭におけるステージと観覧席のレイアウト



【検証結果】

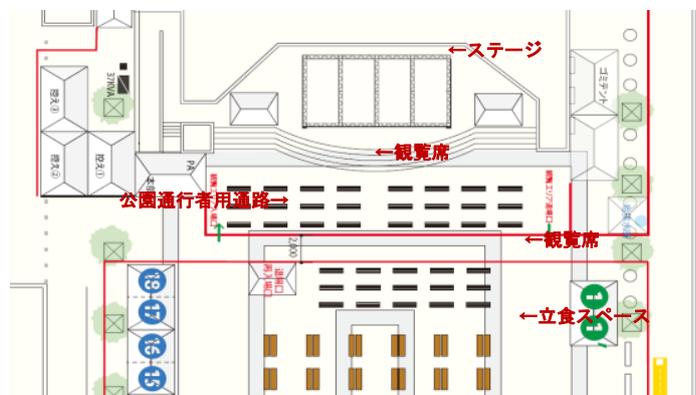
- ・ステージ前に設置した観覧席において密集は発生しなかった。
- ・観覧席と飲食エリアの間に公園通行者用の通路を確保したことで、観覧席の面積が制約され、飲食エリアに多数の立ち見客が発生し、

- ・ステージと観覧席をイレクターフェンスで囲み、入場口で収容人数をカウントし、密集を防ぐ
- ・ステージと観覧席最前列の距離は約4m確保
- ・観覧席のベンチの間隔は、前後約1.5m、左右約1mを確保
- ・ステージエリアと飲食エリアの間に公園通行者用の通路を確保



密集が生じた。

◆仙台食堂 2020 におけるステージと観覧席のレイアウト



- ステージと観覧席をイレクターフェンスで囲み、入場口で収容人数をカウントし、密集を防いだ
- 観覧エリアに入退場口を設けて一方通行の運用とした
- ステージと観覧席最前列の距離は約 4m 確保
- 観覧席のベンチとベンチの間隔を約 0m 確保
- ステージエリアと飲食エリアの間に公園通行者用の通路を確保
- 3 人掛けのベンチを 2 人掛けで使用し、中央に注意喚起の POP を掲示

- ステージエリアにおいて密集は発生しなかった。
- 地元ゆかりのプロミュージシャンが出演したことで、多くの来場者が観覧し、立ち見客が多数発生した。



【今後の対応】

- ステージイベントは来場者の関心が高く、密集が発生しやすいことから、ステージ前の観覧エリアや観覧席は可能な限りゆとりをもって設定する必要がある。
- ステージ前の観覧エリアを広く確保することは、当該エリアでの密集の発生を防止するうえで有効である。

(オ) 物販、飲食、休憩スペース

◎ 検証の視点

- ① 会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ② 人と人との間隔をできるだけ確保する
- ⑤ イベント等の前後や休憩時間などの交流等を極力控えるよう呼びかける
- ⑨ マスクの着用及び咳エチケットの励行を呼びかける

■ 密集対策

イベント名	密集防止対策
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルを置かずベンチのみ設置 ・ ベンチの座面中央にソーシャルディスタンス確保のためのサインを掲示
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルを置かずベンチのみ設置 ・ ベンチの座面中央にソーシャルディスタンス確保のためのサインを表示
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・ 長机の左右に3人掛けのベンチをそれぞれ設置し、長机の中央には前後左右をカバーするアクリル板を設置 ・ 同一グループであれば横並びで、3名で使用することは可とする前提で備品を用意
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・ テーブルを向かい合わせで設置し、テーブルの間には飛沫防止シートを設置 ・ テーブルの左右にそれぞれ椅子を設置したが、椅子の数はテーブル1台に対し2脚とし、テーブルの3名での使用を禁止 ・ テーブルのみの立食スペースも用意。立食スペースにおいては、テーブルの中央にソーシャルディスタンス確保のためのサインを掲出 ・ ベンチのみの飲食・休憩スペースも用意。公園の常設ベンチや植栽の周囲にもソーシャルディスタンス確保のためのサインを表示

※各イベントともに、飛沫感染防止の観点から、飲食スペース以外での飲食や、食べ歩き・飲み歩きは禁止とした。

【検証結果】

◆ NEW NORMAL for SENDAI

- ・ 来場者が適度に分散していたこともあり、大きな混乱は見受けられなかった。



▲ 飲食・休憩スペース



▲ ベンチの中央にソーシャルディスタンス確保のためのサインを表示

◆2020KHB フリーマーケット

- ・来場者数に対して飲食・休憩スペースが大幅に不足したことにより、公園の植栽の周りに腰を掛け、飲食や休憩をとる来場者が散見された。
- ・上記の状況を改善するため、イベントの途中から主催者が、飲食・休憩用ベンチを追加で設置したほか、植栽の周囲にもソーシャルディスタンス確保のためのサインを表示した。



▲飲食・休憩スペースが不足したため、ベンチを追加で設置した



▲飲食・休憩スペースの不足により、植栽の周りで休憩する人が多く、密集が生じた

◆みちのくまると収穫祭

- ・来場者数に対して飲食・休憩スペースが不足したことにより、会場内で歩きながら飲食する人たちの姿が見受けられた。
- ・用意したテーブル、ベンチの形状により、来場者が横並びに座り、顔を向かい合わせながら飲食するケースが多く見受けられた。



▲来場者が多く、テーブルが空席となる時間はあまりなかった



▲横並びで座り、飲食しながら談笑する来場者

◆仙台食堂 2020

- ・定員2名のスペースを3名で利用する来場者の姿が見受けられた。
- ・立食スペースはステージ付近に設けられたが、テーブルの配置により、異なるグループ同士が向き合って飲食する場面が多々発生した。また、ステージから流れる音楽により声が聞き取りにくくなり、マスクを外し顔を近づけて会話する来場者も多数存在した。



▲テーブルと椅子を併設するエリアにはテーブル中央にビニールシートを設置



▲立食スペースでは、一つのテーブルを異なるグループが共用する状況が散見された

【今後の対応】

- ・飲食・休憩スペースは、来場者が最も長時間滞在する区画であり、主催者には万全な密集防止対策が求められることから、想定来場者数に基づき、飲食・休憩スペースを確保する必要がある。
- ・飛沫による感染を防止するためには、同一グループであっても、横並びや対面での飲食が想定される場合には、座席と座席の間に飛沫防止シートやアクリル板を設置するなど、レイアウトを十分に工夫する必要がある。
- ・長時間滞在を抑止するため、立食スペースの活用も有効であるが、その場合は高齢者等が着座できるスペースを確保するなどといった配慮が必要である。

■行列対応

- 飲食を提供する出店ブースに行列が発生した場合や、来場者が飲食・休憩するためのスペースに関する密集発生防止について、以下の対策がとられた。

■行列が発生した場合の対応

イベント名	行列が発生した場合の対応
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・出店ブースのスタッフが間隔を保つように誘導 ・整理券の発行等による行列の解消 ・出店ブース前に行列発生時の待機位置の目安を表示
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・混雑が想定された有名ラーメン店の出店ブースにおいて、待機位置の目安として1mごとにフットプリントを表示。待機列が長くなった場合のために最後尾を案内するスタッフを配置。また、カラーコーンとバーの設置により待機エリアを確保 ・その他のマルシェ出店者には、待機列が発生した場合の誘導方法を事前に周知
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・出店ブースのスタッフが待機列を整理
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・出店ブースにおいて、混雑整理のための専任スタッフを配置 ・出店ブース前に行列発生時の待機位置の目安を表示

【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・大きな混雑も発生せず、問題なく運営できた。

待機位置を示すフットプリントの表示 ▶
(NEW NORMAL for SENDAI)



◆2020KHB フリーマーケット

- ・有名ラーメン店のブースでは、予想通り多くの来場者が列をなしたが、事前の対策どおりに対応することができ、概ね密集の発生を避けることができた。
- ・マルシェの待機列は多くて5～6名程度であり、出店ブースのスタッフによる誘導の結果、密集の発生を防ぐことができた。



▲待機列整理のためにカラーコーンとバーを活用
(2020KHB フリーマーケット)

◆みちのくまると収穫祭

- ・来場者が多く、出店者に待機列を整理する余力がなかったため、店舗前における密集が発生した。



▲来場者が集中する時間帯には、出店ブースの周囲に密集が発生した
(みちのくまると収穫祭)

◆仙台食堂 2020

- ・人気がある出店ブースについては、急遽、主催者がカラーコーンとバーを設置して入場待機列の誘導を行うなど、柔軟な対応により密集の発生を防止した。
- ・行列が長くなり、一部の出店ブースでは会場内の移動導線と行列が重なってしまうケースも見受けられた。



▲人気出店ブースにおいては、主催者が臨機応変に待機列を整理した(仙台食堂 2020)

【今後の対応】

- ・飲食提供ブースにおいては来場者による密集が発生しやすいことから、店舗スタッフによる誘導のみならず、主催者が整理のためにスタッフを巡回させるなど、適切な対応が必要である。
- ・行列発生時に待機位置の目安を表示することも有効と考えられる。

②会場内への入場規制

(ア) 会場内の最大収容人数の設定

◎検証の視点

- ①会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ②人と人との間隔をできるだけ確保する
- ③入場者の制限や誘導

- 会場内における密集の発生を避けるため、全てのイベントにおいては、あらかじめ会場内に同時に滞在することができる来場者数の上限を設定した。
- 滞留可能人数の設定にあたっては「11月末までの催物の開催制限等について（令和2年9月11日付内閣官房新型コロナウイルス感染症対策推進室長発出事務連絡）」に基づき、人と人との間隔を1m設けることとし、会場の面積を4で除した数を上限の目安とした。
- 「NEW NORMAL for SENDAI」「仙台食堂 2020」については会場内に滞在可能な時間の上限も設定した。

■来場者の滞在時間の識別方法

◆「NEW NORMAL for SENDAI」

入場時、来場者に装着させるリストバンドを入場時間帯ごとに色分けすることで来場者の滞在時間を識別した。

◆「仙台食堂 2020」

入場には有料チケットが必要であり、販売されるチケット種別により滞在可能な時間帯を設定した。

■最大収容人数の目安と実際の来場者数、滞在可能な時間の上限の設定

イベント名	会場	会場総面積	最大収容人数の目安※	滞在可能な時間の上限※
NEW NORMAL for SENDAI	勾当台公園市民広場	3,000 m ²	500人	2時間
2020KHB フリーマーケット	杜の広場公園	8,160 m ²	2,040人	—
みちのくまるごと収穫祭	勾当台公園市民広場	3,000 m ²	750人	—
仙台食堂 2020	勾当台公園市民広場 ・カフェ前	4,100 m ²	800人	4時間

※「最大収容人数の目安」と「滞在可能な時間の上限」は主催者が独自に設定したもの

【検証結果】

- ・2020KHB フリーマーケットにおいては、フリーマーケットや飲食・物販ブースの出店エリア等、来場者が滞在することができない面積を除外せず、会場の総面積を4で除した人数を来場者の最大収容人数として設定していたことから、実際の来場者数が最大収容人数を大きく下回っていたにも関わらず、会場内の通路や飲食・休憩スペースにおいて密を感じる時間帯が発生した。

- ・他のイベントにおいても、イベントプログラムの内容や時間帯等によっては、設定した人数以下の滞在可能人数であっても会場内の通路や一部の区画に密集が生じていた。
- ・密集が発生したイベントにおいては、事前に設定した最大収容人数を下方修正することにより対応したが、結果として入場制限を実施するまでには至らなかった。
- ・「NEW NORMAL for SENDAI」では、滞在可能な時間を2時間として上限を設定していたが、会場内のスペースに余裕があり、密集が生じていない時間帯に関しては制限時間を超えた来場者の滞在延長を認めるなど柔軟な対応をとった。

【今後の対応】

- ・最大収容人数については、単純に会場面積や、来場者一人あたりに必要な面積のみをもととして試算するのではなく、イベントプログラムの構成や、人が集まりやすい区画や時間帯などの想定など、さまざまな要素を勘案した上で設定することが望ましい。
- ・一部のイベントにおいては、会場の総面積を4で除した人数を最大収容人数として設定したが、最大収容人数の算定にあたっては、飲食・物販の出店ブースやテント等の造作物を設置するスペースを除外した、来場者が滞在できる区画の面積をもとに試算する必要がある。
- ・イベント開催時において、会場内に人の密集が発生している場合には、あらかじめ設定した最大収容人数に到達していなくても入場規制を実施するなど、機動的かつ柔軟な対応が求められる。

(イ) 会場内収容人数のコントロール

◎検証の視点

- ①会場及び待合場所等における3つの密（密閉・密集・密接）を徹底して回避する
- ②人と人との間隔をできるだけ確保する
- ③入場者の制限や誘導

- 全てのイベントにおいて、会場内の来場者数があらかじめ設定した会場内の最大収容人数を上回ることがないように、運営本部において来場者数を把握することとした。
- 全てのイベントにおいて、入場口や退場口にスタッフを配置し、通過する人の数をカウントした上で一定の間隔で運営本部に数値を報告することにより、会場内に滞留する来場者数を把握する方法をとった。
- 入場後に一旦退場し、再度会場に来場する再入場者についても正確に把握することにより、カウントミスが発生しないよう努めた。

■再入場者の把握方法

イベント名	再入場者の把握方法
NEW NORMAL for SENDAI	来場者のリストバンド装着の有無により判断
2020KHB フリーマーケット	退場時に再入場を希望する来場者に再入場券を発行（再入場時に回収）
みちのくまるごと収穫祭	当初は再入場を想定せず。退場口を再入場口と兼用するよう運用を変更し、配置された警備スタッフが再入場者を識別
仙台食堂 2020	来場者のリストバンド装着の有無により判断

【検証結果】

- ・入場者数のカウントについては主催者の管理のもと概ね適切に実施され、いずれのイベントにおいても大規模な入場制限を実施するには至らなかった。
- ・入退場口、再入場口を複数設置する場合には、入退場者数をカウントする人員も複数の配置が必要となり、会場内収容人数の算出方法も煩雑になった。

【今後の対応】

- ・会場内における来場者の密集を防ぐためには、場内に滞留する来場者数を適切に管理する必要がある。
- ・再入場者があることを前提として、リストバンド等、再入場者の認識を容易とするための準備が必要である。
- ・季節によっては、来場者の手首が衣服により隠れることが想定される。その場合は、リストバンドに拘らず、首からかけるパス等の導入を検討することが望ましい。



▲「NEW NORMAL for SENAI」で使用されたリストバンドのデザイン



▲入場口で来場者にリストバンドを装着

③イベント参加者情報の把握

◎検証の視点

- ④参加者の名簿の作成や、連絡先等の把握に努める
- ⑦2週間以内に海外（感染流行国）又は国内の感染流行地域（クラスター等）へ旅行・出張した者には、参加を控えていただくよう事前に周知することを検討する

(ア) イベント関係者

- 本市のガイドラインに基づき、全ての補助対象イベントにおいて、主催者、設営スタッフ、運営スタッフ、警備スタッフ、ブース出店者、ステージ出演者等、イベントに携わる全ての関係者の名簿・連絡先を作成し、主催者が保管した。
- 本市から補助対象イベントの主催者に対して、アルバイトも含めた全てのイベント関係者について、イベント開催日から起算して2週間前（最低1週間前）からの健康観察と行動履歴の記録を求めた。
- 把握した情報は、万が一、イベント会場において新型コロナウイルスの陽性者が発生した場合に濃厚接触者の把握等のために使用されることから、補助対象イベントの終了後、3週間～1カ月間、主催者の責任において保管し、保管期間の終了後にシュレッダー等により破棄した。

【検証結果】

- ・「健康観察」や「行動履歴」について、記録すべき項目が多く、イベント関係者から主催者に対して、様式への記入方法等に関する問い合わせが多数寄せられた。
- ・イベントに携わる関係者数は非常に多く、かつ関係者一人当たりの記録事項も膨大であることから、情報の管理方法について、主催者が苦慮することとなった。
- ・全ての補助対象イベントにおいて、関係者の情報把握の徹底が図られたことから、万が一、イベント会場で感染者が発生した場合にも、保健所への情報提供を円滑に行う体制をとることができた。

【今後の対応】

- ・イベントの開催にあたっては、今後も関係者の連絡先の把握及び「健康観察」「行動履歴」の記録は必要であるが、特に「健康観察」及び「行動履歴」の記録については、記入すべき事項を具体的に例示することなどにより、記入者の負担軽減を図る必要がある。
- ・情報を管理する媒体として紙ではなくWEBフォーム等の電磁的記録の活用も有効である。
- ・連絡先等は個人情報であり、収集及び保管については厳に注意する必要がある。また、連絡先や「健康観察」「行動履歴」等の個人情報は、場合により保健所等の公的機関に提供される可能性があることについて、事前に承諾を得ておく必要がある。

(イ) 来場者

- 本市のガイドラインにおいて、イベント主催者は参加者名簿の作成や連絡先等の把握に努めることと規定している。会場内で感染者が発生した場合に備え、補助対象イベントでは、以下のとおり来場者の情報の把握等の対策が講じられた。

■ 来場者情報の把握方法

イベント名	来場者情報の把握方法
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none">・WEB上のフォームに氏名、連絡先、健康状態を事前登録・WEB上での来場者登録をしていない（またはできない）人には、所定の用紙に氏名と連絡先の記入を求めるとともに、口頭で健康状態を確認
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none">・入場口で「COCOA」のインストール状況を確認。インストールしている人は入場可とする。・「COCOA」をインストールしていない人には、その場でインストールを案内するか、所定の用紙に氏名と連絡先の記入を求める
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none">・WEB上のフォームに氏名、連絡先を事前登録・WEB上での来場者登録をしていない（またはできない）人には、所定の用紙に氏名と連絡先の記入を求める
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none">・WEB上のフォームに氏名、連絡先を事前登録・WEB上での来場者登録をしていない（またはできない）人は、入場口に用意された所定の用紙か、プレイガイド以外で販売された入場券の裏面に氏名と連絡先の記入を求める

【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・WEB登録について、高齢者をはじめとして戸惑う方々が一定数いた。
- ・入場者の割合は、WEB登録が6割、氏名、連絡先記入が4割だった。
- ・入場待機列においてWEB登録の方法を周知した。

◆2020KHB フリーマーケット

- ・会場でCOCOAをインストールする人に関して、通信環境により時間を要した。
- ・入場待機列において、イベント概要とCOCOAのインストール方法が記載されたチラシを配布することにより、COCOAのインストール方法を周知した。

◆みちのくまるごと収穫祭

- ・WEB登録での入場を推奨したが、スマートフォンの操作が困難な方などにはその場で連絡先を記入してもらうこととなった。
- ・来場者情報登録の必要性について、理解が得られず、入場をやめた来場者がいた。

◆仙台食堂 2020

- ・大きな混乱は見受けられなかった。

【今後の対応】

- ・入場待ちによる来場者の密集発生は可能な限り避けるべきであり、そのためにはWEBでの事前登録といった入場手続きの円滑化が図られることが望ましく、登録方法をわかりやすく周知する必要がある。

- WEB 登録に馴染みのない来場者への配慮も不可欠であり、記入に際しては氏名と電話番号に限るなど、入場手続きに要する時間の短縮に向けた工夫が必要である。また、感染予防の観点から、記入用具の消毒実施や使い捨てペンの活用も有効である。
- 「2020KHB フリーマーケット」においては、厚生労働省が提供する接触確認アプリ「COCOA」のインストールの確認をもって入場可とする運用を行っていた。COCOA のインストールについては、イベント主催者への連絡先の提供に比べ、来場者にとって心理的障壁が低いが、COCOA の接触情報は、1m以内で 15 分間近接しない場合には記録されないため、座席が固定されず、来場者が頻繁に移動する屋外イベントでの利用の有効性については検討が必要である。



▲入場口の様子。左側はWEB 登録による入場者レーン、右側は連絡先を記入する入場者のレーン（みちのくまると収穫祭）



▲氏名と連絡先を記入する来場者（みちのくまると収穫祭）



▲イレクターフェンスにWEB 登録用の QR コードを掲出するなど、入場手続きの円滑化を図った（みちのくまると収穫祭）

④感染症対策

◎検証の視点

- ⑨マスクの着用及び咳エチケットの励行を呼びかける
- ⑩手洗いの徹底
- ⑪会場の入り口等にアルコール消毒液を設置
- ⑫こまめに換気を行う（1～2時間ごとに5～10分）

(ア) 入退場口

- 全ての補助対象イベントにおいて、入場時の検温を実施することにより体調不良者の来場を抑止し、会場内における感染拡大の防止を図った。

■補助対象イベントにおける検温、マスク着用確認、手指消毒等の実施状況

イベント名	検温等の実施状況
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・入場時にサーマルカメラによる検温を実施。体温が37.5℃以上の来場者は非接触式体温計で再検温を実施。再検温の結果が37.5℃以上の場合は入場不可 ・再入場者は非接触式体温計で検温を実施。37.5℃以上の場合は入場不可 ・マスク未着用の来場者には主催者が用意した予備マスクを配布 ・入場口、再入場口で手指消毒を実施
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・入場時にサーマルカメラによる検温を実施。体温が37.5℃以上の来場者はサブテントへ誘導の上、非接触式体温計で再検温を実施。再検温の結果が37.5℃以上の場合は入場不可 ・マスク未着用の来場者には主催者が用意した予備マスクを配布 ・入場口、再入場口で手指消毒を実施
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・入場時に非接触式体温計による検温を実施。体温が37.5℃以上の来場者は入場口に隣接する再検温テントへ誘導の上、5分ほど待機いただいた後に電子体温計で再検温を実施。再検温の結果が37.5℃以上の場合は入場不可 ・マスク未着用の来場者には主催者が用意した予備マスクを配布 ・入場口、再入場口で手指消毒を実施
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・入場時にサーマルカメラによる検温を実施。体温が37.5℃以上の来場者は非接触式体温計で再検温を実施。再検温の結果が37.5℃以上の場合は入場不可 ・マスク未着用の来場者には主催者が用意した予備マスクを配布 ・入場口、再入場口で手指消毒を実施 ・使い捨てマスクケースを配布

【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・検温を拒否した少数の来場者については、入場不可としたほか、検温の結果、高熱のある来場者がいたが、自ら入場を辞退した。
- ・マスク未着用者が若干名いたが、主催者が用意したマスクを着用することで入場を認めた。

◆2020KHB フリーマーケット・みちのくまるごと収穫祭・仙台食堂 2020

- ・検温、マスク着用確認、手指消毒ともに問題なく実施できた。

【今後の対応】

- ・感染の恐れがある方の入場による感染拡大を防止するため、来場者の協力により検温等の健康確認を実施する必要がある。
- ・マスクを着用していない来場者のために、主催者は予備マスクを用意しておく必要がある。



▲非接触式体温計による検温の実施
(みちのくまると収穫祭)



▲体調不良者は入場不可である旨を周知するサイン
(2020KHB フリーマーケット)

(イ) ステージエリア

■ステージイベント運営における感染症対策の実施状況

イベント名	ステージイベント運営における主な感染症対策の実施状況
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・登壇者、出演者の間に飛沫防止の亚克力シールドを設置 ・使用後のマイク除菌の実施 ・その他備品の消毒の実施 ・登壇者同士の身体的接触の抑制 ・出演者のマウスシールドの着用 ・長時間出演者用のマイクシールドの装着 ・出演者控室内における扇風機などを使用した換気の実施 ・観覧席の定期的な消毒の実施
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・出演者のマウスシールドの着用 ・観客がステージに向けて大声を発すること等の禁止（司会者による注意喚起） ・マイクの使いまわしの禁止 ・出演者控室内におけるソーシャルディスタンスの確保 ・観覧席の定期的な消毒の実施
みちのくまると収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・出演者のマスク、マウスシールド、フェイスシールドの着用 ・司会用マイクへのマイクシールドの装着 ・使用後のマイク除菌の実施 ・その他備品の消毒の実施 ・屋外における出演者待機エリアの確保 ・観覧席の定期的な消毒の実施
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・出演者のマウスシールドの着用 ・観客がステージに向けて大声を発すること等の禁止（司会者による注意喚起） ・マイクの使いまわしの禁止 ・出演者控室内におけるソーシャルディスタンスの確保 ・観覧席の定期的な消毒の実施

【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・テープカット等のセレモニー出演者についても、ソーシャルディスタンスの確保を徹底し、全員マウスシールドを着用した。
- ・飲酒した来場者が、観覧席において声を張り上げ踊りだす場面があった。

◆2020KHB フリーマーケット

- ・イベント開催時に出演者に向けて大声を発する来場者はなく、円滑にステージを進行することができた。

◆みちのくまると収穫祭

- ・出演者の一部が観覧席に接近してパフォーマンスを実施するなど、飛沫感染リスクを増大させる行動をとった。

◆仙台食堂 2020

- ・演奏中に観客席に近づかないよう出演者に説明していたにも拘わらず、一部の出演者が観覧席近くでパフォーマンスするなど、飛沫感染リスクを増大させる行動をとったが、主催者からの注意により以後のステージでは改善された。

【今後の対応】

- ・主催者は、マイクなどステージ上で使用される備品については、使用者が変わる都度消毒を実施するか、使いまわしを禁止するとともに、ステージ出演者に対して感染症対策の徹底について理解を求め、出演者による感染リスク拡大を防止する必要がある。
- ・出演者は、ステージ上において他の出演者との間隔を十分にとるとともに、必要に応じてマスクやマウスシールド等を着用するなど、飛沫感染リスクの低減を図る必要がある。
- ・ステージ出演者控室については、密集が生じることがないように、十分な面積を確保するとともに、入室人数を制限する等の取り組みが求められる。また、テント等の密閉された空間を控室として使用する場合、座席の間隔を十分に確保するとともに、扇風機等の設置により換気を徹底することが望ましい。



▲マウスシールドを着用した出演者
(NEW NORMAL for SENDAI)

(ウ) 物販、飲食、休憩スペース

■物販・飲食提供ブースにおける感染症対策の実施状況

イベント名	物販・飲食提供ブースにおける感染症対策の実施状況
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭における飛沫防止シートの設置 ・キャッシュレス決済の推奨 ・現金会計時におけるコイントレイの使用（手渡しの禁止）、コイントレイの消毒 ・出店者の定期的な手指消毒の徹底
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭における飛沫防止シートの設置 ・キャッシュレス決済の推奨 ・出店者の定期的な手指消毒の徹底 ・出店者のマスク、フェイスシールド、ゴム手袋の着用 ・主催者によるフリーマーケット出店者を対象とした定期消毒の実施
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・出店者のマスク、フェイスシールド、ビニール手袋の着用
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・店頭における飛沫防止シートの設置 ・キャッシュレス決済の推奨 ・現金会計時におけるコイントレイの使用（手渡しの禁止）

【検証結果】

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・大きな問題は発生せず、円滑に運営することができた。
- ・キャッシュレス決済については、出店者の事情により全店舗での導入はできなかった。



▲レジまわりを中心に飛沫防止シートを設置

◆2020KHB フリーマーケット

- ・大きな問題は発生せず、円滑に運営することができた。
- ・一般のフリーマーケット出店者を除いた、マルシェエリアの飲食等出店者のほとんどが電子マネーを導入するなど、キャッシュレス決済を活用した。
- ・専任の巡回スタッフを配置し、フリーマーケット出店者を対象に定期消毒を実施した。



▲来場者にもキャッシュレス決済を推奨



▲巡回消毒の実施

◆みちのくまると収穫祭

- ・大きな問題は発生せず、円滑に運営することができた。
- ・企画段階においては出店ブースの店頭に飛沫防止シートの設置を予定していたが、火災防止の観点から安全面を考慮し、中止した。
- ・主催者がフェイスシールドとビニール手袋を配布したが、一部の出店者は使用しなかった。



火災の危険があるため飲食物販ブースでは飛沫防止シートを設置しなかった ▶

◆仙台食堂 2020

- ・大きな問題は発生せず、円滑に運営することができた。
- ・稀に出店者がマスクをずらして接客にあたる様子が見受けられた。
- ・出店者の知り合いと思われる来場者が飲食提供ブース前でマスクを外したまま出店者と会話する場面が見受けられた。



◀飛沫防止シートを設置

【今後の対応】

- ・イベントに出店した飲食関連事業者は感染症対策への意識が高く、マスクの着用や手指消毒等が適切に行われていた。
- ・出店者と来場者の接触機会の低減のためには、飛沫感染対策やキャッシュレス決済の導入が有効である。

■ 飲食・休憩スペースにおける感染症対策の実施状況

イベント名	飲食・休憩スペースにおける感染症対策の実施状況
NEW NORMAL for SENDAI	・定期的なベンチの消毒の実施
2020KHB フリーマーケット	・定期的なベンチの消毒の実施
みちのくまるごと収穫祭	・定期的なテーブル、ベンチの消毒 ・テーブルにおける飛沫防止用アクリルパネルの設置
仙台食堂 2020	・定期的なテーブル、ベンチの消毒 ・テーブルにおける飛沫防止用ビニールシートの設置

【検証結果】

◆ 全てのイベント

- ・ 定期消毒等が行われた。



▲ スタッフによるベンチの定期消毒
(NEW NORMAL for SENDAI)



▲ 飲食・休憩スペースのテーブルに設置した
飛沫防止シート (仙台食堂 2020)

【今後の対応】

- ・ 飲食・休憩スペースは不特定多数の来場者が長時間にわたり滞在することが想定される区画であることから、定期消毒の実施等、適切な衛生管理が必要である。

(工) 運営スタッフ等イベント関係者への周知

- 主催者、運営スタッフ、ブース出店者、ステージ出演者等、イベント関係者に端を発する感染拡大を防止するため、全ての補助対象イベントにおいて、以下の事項について関係者に事前に周知し、従事前の体調管理や開催当日における感染症対策などについて、徹底を求めた。

■感染予防に関するイベント関係者への事前周知事項（2020KHB フリーマーケットの例）

①	普段から「密閉」「密集」「密接」を避け、こまめな手洗い・うがい、咳エチケットに気を付け健康維持に努める。会場でも同様の行動をすること。
②	設営・当日・移動手段（行き帰り）での防菌対策を徹底すること（マスク着用など）。
③	入場ゲートで体温チェックを受けること。
④	以下の事項に該当する場合は運営スタッフとは認めない。 ・発熱、咳、痰、鼻汁、咽頭痛、息苦しさ、倦怠感、食欲低下、味覚異常、嗅覚異常の症状がある場合。 ・同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合。 ・過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合。 ・過去 14 日以内に国内の感染流行地域 クラスター等へ旅行・出張した場合。
⑤	スタッフは、会場内では感染防止のために主催者が決めたルールに従うこと。
⑥	スタッフは、フリーマーケット終了後2週間以内に新型コロナウイルス感染症を発症した場合は、主催者に対して速やかに濃厚接触者の有無等について報告すること。
⑦	新型コロナウイルス接触 確認アプリ「COCOA」をインストールすること。
⑧	事前を送付する「健康観察票」「行動調査票」を提出すること。

【検証結果】

- ・周知すべき感染症対策は多岐にわたり、記載量も多くなってしまうため、人によっては全てを把握することが困難だったものと思料される。

【今後の対応】

- ・イベントに関わる全ての関係者が、日ごろから感染拡大防止について強く意識することは安全安心なイベント運営のためには不可欠であるとともに、今後開催されるイベントにおいても、主催者は関係者等に対し、事前に感染症対策を周知する必要がある。
- ・事前周知にあたっては、必要事項は漏れなく伝達するとともに、全ての人が理解しやすい表現を工夫する必要がある。

(オ) 来場者への広報

- 全てのイベントにおいて、開催当日における感染拡大防止についてイベント来場者の協力を求めるため、事前広報を実施した。

■補助対象イベントにおけるイベント来場者向け事前広報の実施状況

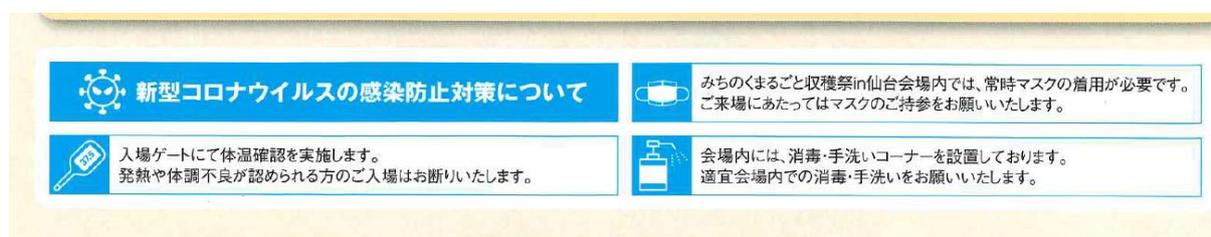
イベント名	広報媒体	主な内容
NEW NORMAL for SENDAI	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ ・ホームページ 	<ul style="list-style-type: none"> ・WEBによる来場者情報の事前登録の推奨 ・滞在可能な時間の上限 ・高齢者や基礎疾患がある方への注意喚起 ・COCOAやMICAのインストールの推奨
2020KHB フリーマーケット	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ ・ホームページ ・ラジオ番組でのPR ・テレビ番組でのPR ・テレビCM 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃からの「三密」回避、手洗いやうがい、咳エチケットの励行 ・会場への来場時の防菌対策 ・入場口での検温実施の予告 ・発熱者等入場不可となるケースの周知 ・会場内で新型コロナウイルス感染症に感染した場合、速やかに保健所に連絡することの必要性
みちのくまるごと収穫祭	<ul style="list-style-type: none"> ・パンフレット (地下鉄駅構内のラック等で配布) ・ラジオ番組でのPR 	<ul style="list-style-type: none"> ・会場内でのマスク着用の徹底 ・会場内におけるソーシャルディスタンスの確保 ・混雑時における入場規制実施の予告 ・入場口での検温実施の予告 ・会場内での消毒・手洗いの励行 ・COCOAのインストールの推奨
仙台食堂 2020	<ul style="list-style-type: none"> ・チラシ ・ポスター ・地下鉄広告 ・ラジオ番組でのPR ・テレビ番組でのPR ・リーフレット-広告 	<ul style="list-style-type: none"> ・入退場口での消毒の徹底 ・会場内におけるソーシャルディスタンスの確保 ・会場内でのマスク着用の徹底 ・体調不良者の来場抑止 ・会場への入場者数制限の実施

【検証結果】

- ・全てのイベントで、来場者への事前広報を実施したことにより、開催当日に主催者が講じた感染症対策について、来場者は理解できたものと思料される。

【今後の対応】

- ・イベント来場者の感染症対策の徹底のためには、事前広報が有効である。



▲「みちのくまるごと収穫祭」パンフレットに記載された感染防止対策の広報の一部

(2) 収支計画に関する検証

①補助対象イベントの収支予算

■収入

項目	NEW NORMAL for SENDAI	2020 KHBフリーマーケット	みちのくまるごと 収穫祭	仙台食堂2020
出店料 協賛金（主催者拠出金含む） 入場料	2,929,800	3,268,172	3,002,470	3,515,530
仙台市補助金	6,000,000	6,000,000	6,000,000	6,000,000
合計	8,929,800	9,268,172	9,002,470	9,515,530

(単位:円)

■支出

項目	NEW NORMAL for SENDAI	2020 KHBフリーマーケット	みちのくまるごと 収穫祭	仙台食堂2020
会場使用料	22,750	376,025	41,100	82,750
会場設営関連費	2,583,986	3,314,708	4,595,580	3,500,000
うち感染症対策費（割合）	730,486 (28.27%)	2,371,266 (71.54%)	686,950 (14.95%)	868,500 (24.81%)
会場内造作・看板関連	921,800	169,994	447,150	550,000
うち感染症対策費（割合）	455,400 (49.40%)	75,614 (44.48%)	194,700 (43.54%)	291,610 (53.02%)
運営スタッフ人件費	1,922,844	2,400,090	1,301,300	1,556,950
うち感染症対策費（割合）	886,864 (46.12%)	922,845 (38.45%)	343,200 (26.37%)	834,250 (53.58%)
警備費	468,600	53,240	590,700	537,310
うち感染症対策費（割合）	285,120 (60.85%)	0 (0.00%)	79,200 (13.41%)	106,920 (19.90%)
広報費	423,500	1,831,863	605,000	1,098,194
うち感染症対策費（割合）	170,280 (40.21%)	197,363 (10.77%)	0 (0.00%)	388,636 (35.39%)
音響・照明	770,000	277,883	244,640	440,000
うち感染症対策費（割合）	176,000 (22.86%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
出演料	401,500	0	0	288,000
うち感染症対策費（割合）	225,500 (56.16%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)	0 (0.00%)
事務局費・諸経費	1,414,820	844,369	1,177,000	1,462,326
うち感染症対策費（割合）	355,300 (25.11%)	46,750 (5.54%)	275,000 (23.36%)	40,000 (2.74%)
合計	8,929,800	9,268,172	9,002,470	9,515,530
うち感染症対策費（割合）	3,284,950 (36.79%)	3,613,838 (38.99%)	1,579,050 (17.54%)	2,529,916 (26.59%)

(単位:円)

②収入面に関する検証

【検証結果】

- ・イベント主催者の主な収入源としては、企業の協賛金と飲食・物販等のブース出店料があげられる。
- ・今回の補助対象イベントが開催された期間は、新型コロナウイルス感染症が終息していない時期であり、業績が悪化している企業が多かったことに加え、コロナ前のイベントと比べて来場者数が大幅に減少することが想定されたことから、企業にとっての協賛メリットを提供することが難しく、平常時と比べて企業協賛の獲得が困難であった。
- ・会場内の収容人数を制限することにより平常時と比べて来場者が減ることに伴い、飲食ブース等の出店者の収益も減少することが想定されたことから、主催者としても出店料を減額せざるを得ない状況を強いられた。

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・企業協賛の獲得が難しく、主催者である「イベントの未来を考える会」の構成企業が自ら協賛金を支払った。
- ・平常時と比べて出店料を安価に設定したことにより、イベントに出店した事業者は全て利益を得ることができた。出店料を平常時と同等に設定する場合には、今回の約3倍となる1万人程度の来場者がなければ出店者の利益は出ないとの意見があった。

◆2020KHB フリーマーケット

- ・フリーマーケットの出店料を平常時の4,000円から3,000円に減額した。
- ・会場内の密を避けるため、通路の幅員を確保する必要があり、フリーマーケットや物販・飲食関連事業者の出店者数を絞らざるを得ず、出店料収入が大きく減少した。

◆みちのくまると収穫祭

- ・会場内の導線確保のため、出店者を平常時より3割程度減らした結果、出店料収入が減少した。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響により業績が悪化している事業者が多く、出店者の確保に苦慮した。また、イベント開催時期、本市の新型コロナウイルスの感染者数が他地域と比べて多かったことを理由として、主に北東北の事業者が出店を見合わせるケースがあった。

◆仙台食堂

- ・出店料を平常時の半額程度に設定したことにより、出店料収入が大きく減少した。
- ・収益をあげるため、入場有料としてチケットを販売したが、プレイガイドへの委託料など相応の経費も発生した。
- ・協賛社へのメリット訴求が困難であり、どちらかと言えば協賛企業からは社会貢献や出店者への支援といった観点から協賛金をいただいた。
- ・企業協賛以外の収入源確保についても検討が必要との意見があった。

③支出面に関する検証

【検証結果】

- ・イレクターフェンスや入退場口の設置にかかる経費、運営スタッフの人件費など、主催者には感染症対策に関する多額の経費負担が発生した。

◆NEW NORMAL for SENDAI

- ・入退場口の運営に 11 名のスタッフの配置が必要となるなど、平常時と比べて人件費が増加した。
- ・警備スタッフも平常時の 6 名から 12 名に増員した。
- ・ステージの音響スタッフについても、備品の消毒など普段にない業務が発生することから、増員が必要となった。
- ・感染症対策に関するスタッフ向けの事前研修が必要となり、研修の運営に関する経費も発生した。

◆2020KHB フリーマーケット

- ・会場が広く、イレクターフェンスの設置に関する経費負担が大きかった。
- ・入退場口の運営に 13 名のスタッフの配置が必要となるなど、平常時と比べて人件費が増加した。
- ・費用面の観点からは、今回と同様の枠組みで感染症対策を実施することは難しく、対策の見直しが必要である。

◆みちのくまると収穫祭

- ・感染症対策に関する経費負担が大きかった。
- ・会場においてイレクターフェンス等の貸し出しがあればありがたい。

◆仙台食堂 2020

- ・感染症対策を精査していく過程において、当初計画よりも必要経費が増加してしまった。
- ・運営スタッフについて、平常時の 3 倍の人員を要した。

④収支面に関するまとめ

- ・コロナ禍でのイベント開催においては、感染症対策により必要となる経費負担が生じる一方で、出店料や協賛金等の収入が減少するため、それに代わる新たな収入源の確保を検討する必要がある。
- ・イベントの収支を成立させるために、入場料を設定したり、提供する飲食物等の販売価格を妥当な範囲で検討するなど、感染症対策に係る経費の一部を来場者に負担してもらうことは、手段として検討しうるものと思料される。

参考：入場料の徴取

- 「仙台食堂 2020」においては、来場者数の制限・管理の実施を目的として、有料の入場チケットを販売し、チケットを持参しない来場者の入場を制限した。
- チケットの販売価格は一人 1,500 円であり、チケット 1 枚につき小学生以下の子ども一人の入場を可とした。
- チケットはブース出店者の店舗やプレイガイドで事前に販売したほか、当日券の販売も行った。

【検証結果】

- ・公園を会場とするイベントにおいて入場料金を設定した事例はあまりなく、チケットの販売状況が懸念されたが、用意したチケットを完売することはできなかったものの、予定数の 8 割程度を販売することができた。
- ・入場料金の設定について来場者にアンケートを実施したところ、83%の方が「妥当」、9%の方が「安い」と回答するなど、適正な価格だったと推察される。

【今後の対応】

- ・入場チケット制の導入は、事前に来場者数を把握することが可能となるなど主催者にとって利点があり、来場者数の制限・管理の手法としては一定の効果がある。
- ・入場料金については十分に妥当性を検討の上、施設管理者等とも協議しながら適正な価格を設定する必要がある。
- ・入場チケット制を導入し、公の施設を会場としてイベントを開催する場合には、事前販売だけでなく当日券も用意するなど、会場に来場するまでイベントの開催を知らなかった市民の参加を妨げることがないような配慮が必要である。



▲「仙台食堂 2020」の入場チケット

6 有識者意見

東北医科薬科大学大学院薬学研究科 臨床感染症学教室

藤村 茂 教授

令和2年度の屋外モデルイベント開催支援事業に採択された4つの補助対象イベントは、①10月3日、②10月31日、11月1日、③11月2、3日、④11月14、15日に開催された。感染対策上、最重要となる論点は、こうしたイベントにより宮城県内における新型コロナウイルス（SARS-CoV2）の感染拡大が起こったか否かの検証にある。これまでの知見から、SARS-CoV2の感染から発症までの期間は、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）確定例の検討から、2-7日（最大で14日）、中央値で4日とされている。これに、上記4イベントの1週間前後の宮城県内罹患者数（図1）を照合すると、11月2～9日に認められた小さなピーク（矢印）と②、③のイベントとの関連が疑われた。しかしながら、このピークは外国籍の学生の大規模クラスターによるものと考えられ、さらに11月7日以降は仙台市内の2つの中学校でのクラスターが発生したことに起因する。これらのクラスターと②、③のイベントとの因果関係は確認されていないことから、これら4イベントの開催によるSARS-CoV2の感染拡大は起こらなかったと考察された。

以下に各イベントに関する意見を示す。

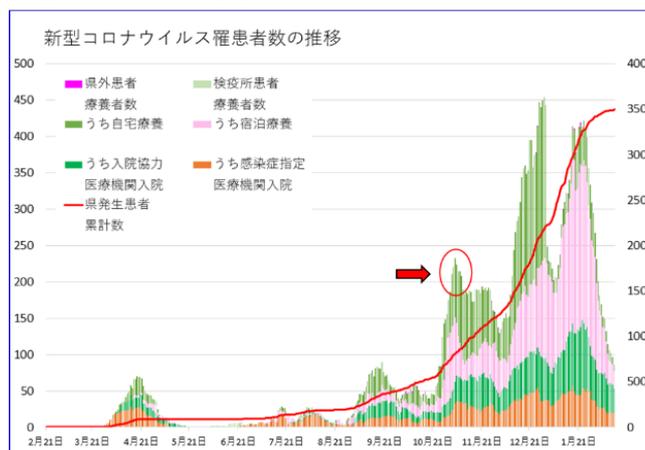


図1 宮城県におけるCOVID-19罹患者数の推移

①NEW NORMAL for SENDAI

会場の広さに対し来場者数が適合しており、終始適切なソーシャルディスタンスが保たれていた。さらに入場口での混雑も見られなかったことから4つの中で最も問題が無かったイベントといえる。しかしながら、出演者控えテント内で密集が発生したこと、音楽ステージの場面で飲酒中の来場者がマスクを外して歓声をあげていた事例が認められた。観覧しながらの飲食はマスクを外す行為につながることから、ステージと飲食ブースを完全に分け、アルコールの販売を禁止する必要があると考えられた。

②2020 KHB フリーマーケット

2日間開催されたイベントで1日あたりの入場者数が5000人超と最も多くの来場者となった。入場口、飲食および休憩ブース、イベントプログラムに起因したステージ前など、多くの場面で密集が発生した。同会場への来場者数を当初2040人に設定したものの、途中で下方修正せざるを得ない状況が生じたことから、ブース毎の対応策を示すことに加え、滞在可能な時間の上限を決め、入場者数を適宜制限する必要がある。これをベースに各ブースの対応を考慮しなければ、感染対策の実効性は薄れると思われる。

③みちのくまると収穫祭

食材と飲食を中心とした店舗型イベントであり、2日間開催されたが、2日目に4,000人を超える来場者となった。公園通行者の導線確保およびステージイベントにおいて、飲食エリアの立ち見客がイレクターフェンス沿いのステージ方向に密集していた。ステージを観覧しながら飲食できることからマスクを外すことも多く、感染対策上もっとも危険な状況といえる。導線の位置をステージから遠ざける対応は考えられるが、①NEW NORMAL for SENDAI ではこうした立ち見客が殺到することは無かった。この差は偏到来場者数の差によるものと考えられる。②と③の経験から、勾当台公園市民広場程度のスペースにおける1日あたりの入場者数として4,000人を超えないよう制限することは一つの知見である。さらにこの総数を時間ごとに分散する対策を併せて講じなければならないだろう。

イベント③の特色は、旬の食材を用いた美味しい食事を会場内で楽しむことである。テーブルを離しセンターにアクリル板を設置した点は評価できるが、隣席の距離を縮め談笑する場面が見られた。実質的な対応は、各テーブル上のアクリル板をクロス状に配置し、長椅子中央に四角錐(三角コーン様)を設置して物理的に隣人に近づけないようにすることが効果的である(図2:左)。また、このアクリル板対応は立食用のテーブルでも活用できる(図2:右)。

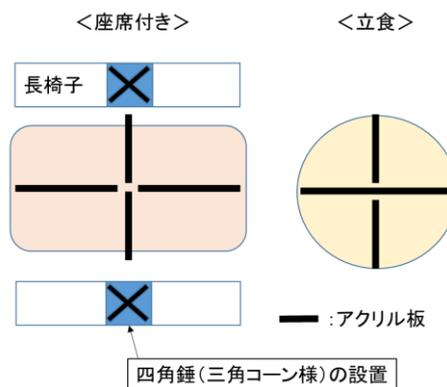


図2 屋外イベントにおける食事テーブルの感染対策例

④仙台食堂 2020

4つのイベントの中で唯一チケット購入者のみが入場できるイベントである。これにより来場者数が最も少なく、約2800人に抑えられた。報告書に記載されたように大きな混乱は認められていない。感染対策上は、人気店のブースに一時的に密集が生じたが、人員対応で対処出来ていたと思われる。

<まとめ>

各イベントの状況から、勾当台公園市民広場程度の会場において感染対策上、適した来場者数は1日あたり4000人を超えないことが一つの目安になる。但し、この総数を開催時間中に分散させるプログラムの設定が必須である。またイベント共通の問題として、ステージ演目の際、飲食エリアからの立ち見客の対応を検討しなければならない。例えば、市民広場はL字になっていることから、飲食エリアはステージがみえにくい円形広場(トイレ前)に配置し、この飲食エリアとステージ観覧エリアを入場口で仕切るなども対応の1つかもかもしれない。

新型コロナウイルスに対するワクチン接種が始まったものの、県民の多くが接種完了するまで暫くかかると予想され、さらに変異ウイルスも未解明の部分が多々あることから、当分は、各々の感染対策をこれまで通り行う必要がある。その中でこうしたイベントは市民生活に根付いた、かけがえのない位置づけであることから、今回の検証が、今後のイベント開催に活用されることを大いに期待する。

7 イベント開催時に留意すべきポイント

本報告書の結びとして、これまでの検証結果を以下のとおり総括する。

(1) イベントの企画時に留意すべき事項

①国や自治体のガイドラインを遵守した企画立案

イベントの企画内容や感染症対策の立案にあたっては、国や自治体が策定する最新のガイドラインを遵守する必要がある。

②三密回避に配慮した会場の設定

【全体的なレイアウト設定について】

- ・イベントの開催にあたっては、来場者情報の把握に努めることとされており、エレクターフェンスの活用による会場エリアの区分けは有効と考えられる。
- ・来場者による密集発生を防止するため、十分な通路幅を確保する必要がある。
- ・ステージにおける立ち見客発生を防止するため、飲食エリアはステージ観覧エリアと離れた区画に配置することが望ましい。

【入退場口について】

- ・来場者の体調確認や連絡先の把握、手指消毒を確実に実施するとともに、会場内滞在者数を把握するため、会場には入退場口を設ける必要がある。
- ・入退場口を設ける場合には、入場者と退場者の導線が錯綜することがないように設置位置を工夫するとともに、案内表示の視認性について十分に気を配る必要がある。

【待機列対策について】

- ・手続きの効率化やスタッフの増員など、入場口での受入体制の強化は、来場者の円滑な入場に有効である。
- ・待機列が発生することを想定し、待機位置の目安の表示や、待機列が伸びた場合のスペースを事前に十分に確保しておく必要がある。

【公園通行者のための導線確保について】

- ・市所管の屋外施設を会場とする際には、イベントに参加しない来園者の導線確保について配慮することが望ましい。しかし、その導線の確保場所については、会場内の各エリアの面積を十分に確保できるよう検討しながら、施設管理者と協議することが望ましい。

【ステージエリアについて】

- ・ステージイベントは来場者の関心が高く、密集が発生しやすいことから、ステージ前の観覧エリアや観覧席は可能な限りゆとりをもって設定する必要がある。

【物販、飲食、休憩スペースについて】

- ・飲食・休憩スペースは、来場者が最も長時間滞在する区画であり、主催者には万全な密集防止対策が求められることから、想定来場者数に基づき、飲食・休憩スペースを確保する必要がある。
- ・飛沫による感染を防止するためには、同一グループであっても、横並びや対面での飲食

が想定される場合には、座席と座席の間に飛沫防止シートやアクリル板を設置するなど、レイアウトを十分に工夫する必要がある。

- ・飲食提供ブースにおいては来場者による密集が発生しやすいことから、店舗スタッフによる誘導のみならず、主催者が整理のためのスタッフを巡回させるなど、適切な対応が必要である。

③最大収容人数の設定

- ・最大収容人数については、単純に会場面積や、来場者一人あたりに必要な面積のみを用いて試算するのではなく、イベントプログラムの構成や、人が集まりやすい区画や時間帯の想定など、様々な要素を勘案した上で設定することが望ましい。

④イベント関係者の連絡先把握

- ・イベントに携わる全ての関係者の名簿・連絡先や、イベント開催日から起算して2週間前（最低1週間前）からの健康観察と行動履歴の記録を主催者が把握する必要がある。

⑤イベント関係者への感染症対策の周知徹底

- ・イベントに関わる全ての関係者が、日ごろから感染拡大防止について強く意識することは安全安心なイベント運営のためには不可欠であるとともに、今後開催されるイベントにおいても、主催者は関係者等に対し、事前に感染症対策を周知する必要がある。
- ・事前周知にあたっては、必要事項は漏れなく伝達するとともに、全ての人が理解しやすい表現を工夫することが望ましい。
- ・出店者と来場者の接触機会の低減のためには、飛沫感染対策やキャッシュレス決済の導入が有効である。

⑥来場者への広報

- ・開催当日における感染拡大防止についてイベント来場者の協力を求めるため、事前広報を実施することが望ましい。

(2) イベント開催当日に留意すべき事項

①来場者情報の把握

- ・イベント主催者は来場者の氏名や連絡先を把握する必要がある。
- ・入場待ちによる来場者の密集発生は可能な限り避けるべきであり、そのためにはWEBでの事前登録といった入場手続きの円滑化を図ることが望ましく、登録方法をわかりやすく周知する必要がある。

②会場内収容人数のコントロール

- ・会場内における来場者の密集を防ぐためには、場内に滞留する来場者数を適切に管理する必要がある。
- ・再入場者があることを前提として、リストバンド等、再入場者の認識を容易とするための

準備が必要である。

③感染症対策の徹底

【入退場口について】

- ・感染の恐れのある方の入場による感染拡大を防止するため、来場者の協力により検温等の健康確認を実施する必要がある。
- ・マスクを着用していない来場者のために、主催者は予備マスクを用意する必要がある。

【ステージエリアについて】

- ・マイクなどステージ上で使用される備品については、使用者が変わる都度消毒を実施するか、使いまわしを禁止する必要がある。
- ・出演者は、ステージ上において他の出演者との間隔を十分にとるとともに、必要に応じてマスクやマウスシールド等を着用するなど、飛沫感染リスクを排除する必要がある。

【物販、飲食、休憩スペースについて】

- ・飲食・休憩スペースは不特定多数の来場者が長時間にわたり滞在することが想定される区画であることから、定期消毒の実施等、適切な衛生管理が必要である。

(3) イベント開催後に留意すべき事項

①イベント参加者情報の保管と破棄

- ・主催者は、イベント関係者の名簿・連絡先や、イベント開催日から起算して2週間前（最低1週間前）からの健康観察と行動履歴の記録、イベント来場者の氏名や連絡先を、イベント終了後、3週間～1カ月間、責任をもって保管し、保管期間終了後にシュレッダー等により破棄する必要がある。

付属資料

- ・資料1 【事務連絡】 3月1日以降の催物の開催制限、施設の使用制限等に係る留意事項について
(令和3年2月26日)
- ・資料2 新型コロナウイルス感染症の発生に伴う事業及び施設等の取り扱いに係るガイドライン
(令和3年3月25日付 十五訂版)

- ・資料3 「NEW NORMAL for SENDAI一杜の都復活祭」事業報告書
- ・資料4 「NEW NORMAL for SENDAI一杜の都復活祭」新型コロナウイルス感染症対策についての効果
検証報告書

- ・資料5 「KHBフリーマーケット&マルシェ」事業報告書

- ・資料6 「KHBフリーマーケット&マルシェ」新型コロナウイルス感染症対策についての効果検証報
告書

- ・資料7 「みちのくまると収穫祭 in 仙台」事業報告書

- ・資料8 「みちのくまると収穫祭 in 仙台」新型コロナウイルス感染症対策についての効果検証報
告書

- ・資料9 「仙台食堂 2020」事業報告書

- ・資料10 「仙台食堂 2020」新型コロナウイルス感染症対策についての効果検証報告書